

中部大会速報

14 愛知県 劉谷東高校

心に響く、手紙

「変わる」勇気をもらおう

26日、劉谷東高校(愛知県)が「手紙 2015」を上演した。演劇部を舞台に、生徒が変化していく情景を表現した。上演後、キャスト、演出の方にインタビューした。

伝えたいこと

人はどのようにしたら変わっていきけるのかを考え、多くの人の気持ちを動かしたかった。

苦労の数々

手紙を読むシーンでは、ただ読んでいるだけでは感情が入らず、観客に訴えることができない。手紙を読むシー

ンが流されないように、初めて読むように演じた。

役者のブラジル人役は、言葉のイントネーションや、喋り方を工夫した。

劇中でのスローモーションのシーンにより、場面にインパクトを与えた。

音響では

劇中では、様々な曲を流した。選曲の理由は、劇の内容に、歌詞や曲のリズムがピッタリのものを探した。さらに曲をBGMとして利用するのはなく、音楽のみで、セリフを一切話さない場面を設けることで、劇にテンポを持た

せた。

本番を終えて

上演中は非常に緊張したが、最後は楽しく終わらせることができて良かった。また、いままでのハプニングがあったからこそ、本番でしっかりと役を演じきることができた。

脚本について



序盤、引きこもりのままの生徒。

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月26日

作品名

手紙 2015



不登校から抜け出し、学校にやってきた生徒。

この脚本は既成であるが、不登校の生徒が六割であるなどの内容は実際にあったことだ。

編集後記

この劇では、キャストが少なかったものの、非常に興味を持てるストーリーであり、劇の中に吸い込まれた。また、手紙を読むシーンでは、

キャストが不登校の生徒になりきっていたため、とても斬新で、記憶に残った。人生は決して楽ではないという重いテーマが流れる曲とともにしっかしくと伝わった。

感想カードより

スローモーションが非常に面白く、感動した。ドラえもんは確かにいないが、この劇を見て元気をもらった。(T高校 Mさん)

スローモーションがとても綺麗で、惹きこまれた。パネルが三枚のみで、シンプルだったが、役者の動きが引き立っており、良かった。(匿名)

(担当) 香村、前、齋藤、中沢